

## IV. ワーク・ライフ・バランスについて

### 1. 仕事と家庭の両立

(1) 仕事と育児を両立しやすい職場かどうか (問 31) \* 新規の設問

#### 【仕事をしている方に】

問 31〔カード 28〕仕事をしている方にお聞きします。あなたは仕事をしていますか。

(調査員注：仕事をしていない方は、問 32 へ)

あなたの職場は、仕事と育児を両立しやすい職場ですか。あなたの考えに近いものを1つだけ選んでください。

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1 とてもそう思う        | 4 全くそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う   | 5 わからない    |
| 3 どちらかといえばそう思わない |            |

仕事をしている人に、仕事と育児を両立しやすい職場かどうかを聞いたところ、日本では「とてもそう思う」が男性で 13.7%、女性で 23.1%であり、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は男女それぞれ、49.6%、68.6%であった。また、「仕事と育児を両立しやすい職場である」と肯定的に捉える割合の男女差は 19 ポイントと大きい。

各国比較では、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計による「仕事と育児を両立しやすい職場である」と肯定的に捉える人の割合は、男性ではスウェーデンが 83.7%と最も高く、アメリカ (56.3%)、フランス (55.9%)、日本 (49.6%)、韓国 (36.3%) の順になっている。一方女性では、スウェーデン (82.1%)、日本 (68.6%)、アメリカ (68.0%)、フランス (60.9%)、韓国 (44.9%) の順になっている。男女ともにスウェーデンは仕事と育児を両立しやすい職場である」と肯定的に捉える人の割合が最も高く、韓国が最も低かった。

また、韓国の男性では「まったくそう思わない」が 30.9%で最も高い一方、女性では「どちらかといえばそう思う」が 36.9%と最も高くなっている。また、アメリカの男性では「とてもそう思う」が 28.3%で最も高い一方、女性では「どちらかといえばそう思う」が 34.7%と最も高くなっている。

(表 IV-1)

図 IV-1

(%)

			とてもそう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	全くそう思わな い	わからない
〔男性〕	日本	2010年(488人)	13.7	35.9	30.7	16.6	3.1
	韓国	2010年(446人)	10.3	26.0	30.5	30.9	2.2
	アメリカ	2010年(407人)	28.3	28.0	18.9	16.2	8.6
	フランス	2010年(376人)	25.0	30.9	27.1	13.3	3.7
	スウェーデン	2010年(421人)	58.0	25.7	8.1	4.8	3.6
〔女性〕	日本	2010年(481人)	23.1	45.5	19.8	10.6	1.0
	韓国	2010年(301人)	8.0	36.9	27.2	25.2	2.7
	アメリカ	2010年(357人)	33.3	34.7	13.2	14.0	4.8
	フランス	2010年(337人)	29.1	31.8	23.1	13.6	2.4
	スウェーデン	2010年(374人)	59.6	22.5	5.3	5.1	7.5

(2) 家庭における父親の役割 (問 32) \* 新規の設問

【全員に】

問 32 [カード 29] 一般的に考えて、家庭における父親の役割として重要なことは何だと思えますか。

あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。(3M.A.)

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1 働いて生活費を得ること      | 6 日曜大工や電化製品の修理などを行なうこと |
| 2 家庭内での重要事項を決定すること | 7 町内会などで地域とのつながりをもつこと  |
| 3 母親の話や悩みを聞くこと     | 8 その他(具体的に)            |
| 4 子どもの世話をすること      | 9 特になし                 |
| 5 家事を行うこと          | 10 わからない               |

一般的に考えて、家庭における父親の役割として重要なことは何だと思うかを聞いたところ、日本では、男女ともに「働いて生活費を得ること」が最も高い(男性:93.5%、女性:93.8%)。男性では「母親の話や悩みを聞くこと」が45.5%と2番目に高いが、女性では、「家庭内での重要事項を決定すること」が46.7%と2番目に高い。

また、各国の結果では、日本で男女ともに最も高かった「働いて生活費を得ること」は、日本、韓国の男女、アメリカの男女、フランスの男性においても最も多い回答だった。フランスの女性及びスウェーデンの男女では「子どもの世話をすること」が最も高かった。

日本の女性で2番目に高かった「家庭内での重要事項を決定すること」は、韓国及びアメリカでは男女ともに5割~7割と高いが、日本の男性では4割に留まり、フランスでは男女ともに5割に満たず、スウェーデンでは男女とも2割程度と更に低い。(表 IV-1)

表 IV-1

(%)

男性	働いて生活費を得ること	家庭内での重要事項を決定すること	母親の話や悩みを聞くこと	子どもの世話をすること	家事を行うこと	日曜大工や電化製品の修理などを行なうこと	町内会などで地域とつながりをもつこと	その他	特にない	わからない
日本 2010年(539人)	1 93.5	4 40.1	2 45.5	3 43.2	10.8	5 10.6	16.5	-	0.4	0.6
韓国 2010年(514人)	1 89.1	2 73.7	3 54.7	4 27.6	4.3	5 14.0	10.5	0.2	-	0.2
アメリカ 2010年(491人)	1 84.9	2 62.3	4 36.3	3 43.2	8.4	5 30.3	5.7	0.6	-	2.0
フランス 2010年(460人)	1 72.6	3 47.6	4 34.6	2 63.7	6.5	4 34.6	5.7	0.7	1.5	0.4
スウェーデン 2010年(510人)	2 46.3	20.8	3 44.7	1 52.2	4 31.2	5 23.7	9.6	5.3	4.3	2.5

(%)

女性	働いて生活費を得ること	家庭内での重要事項を決定すること	母親の話や悩みを聞くこと	子どもの世話をすること	家事を行うこと	日曜大工や電化製品の修理などを行なうこと	町内会などで地域とつながりをもつこと	その他	特にない	わからない
日本 2010年(709人)	1 93.8	2 46.7	4 39.1	3 43.3	8.0	5 14.8	14.7	-	0.7	0.1
韓国 2010年(491人)	1 82.1	2 73.7	3 56.0	4 33.6	3.3	5 13.6	10.6	0.2	-	0.4
アメリカ 2010年(509人)	1 85.3	2 50.9	4 40.1	3 48.3	9.0	5 28.7	6.9	2.4	0.8	1.2
フランス 2010年(542人)	2 63.1	3 45.0	4 44.3	1 67.0	5.7	5 33.4	4.4	0.9	2.0	0.2
スウェーデン 2010年(491人)	2 43.6	16.1	3 43.4	1 49.5	4 29.7	5 27.9	7.3	6.1	4.5	2.6

注：上段の網掛け数字は各国の上位5項目の順番

(3) いわゆる三歳児神話に対する考え方について (問 33)

問 33 [カード 30] 子どもが3歳くらいまでの間は、保育所等を利用せずに母親が家庭で子どもの世話をすべきだという意見に対して、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- |              |         |
|--------------|---------|
| 1 賛成         | 4 反対    |
| 2 どちらかといえば賛成 | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば反対 |         |

子どもが3歳くらいまでの間は、保育所等を利用せずに母親が家庭で子どもの世話をすべきだという意見に対して、どう思うかを聞いたところ、日本では、「賛成」と回答した割合が男性で23.7%、女性で18.5%であり、前回調査から男女ともにそれぞれ、3.4ポイント、8.9ポイント減少している。

「賛成」、「どちらかといえば賛成」を足した結果では、男性では3.0ポイント上昇し68.8%となっており、女性では7.2ポイント減少し62.2%となっている。

各国比較をみると、アメリカ、フランス、スウェーデンの3カ国は男女ともに前回より「賛成」が上昇している。韓国は、男女ともに減少傾向にはあるものの「賛成」と回答する割合が前回同様他国に比べて最も多く、男性で49.6%、女性で50.7%となっている。逆に、スウェーデンでは、「反対」が各国中、最も高い(男性：39.8%、女性：32.0%)。しかし、男女とも前回よりそれぞれ4.0ポイント、10.9ポイント減少している。(表 IV-2)

表 IV-2

(%)

			賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない
〔男性〕	日本	2010年 (539人)	23.7	45.1	20.4	8.0	2.8
		2005年 (501人)	27.1	38.7	20.2	9.0	5.0
	韓国	2010年 (514人)	49.6	34.4	8.9	4.7	2.3
		2005年 (511人)	55.2	30.8	7.5	4.6	2.0
	アメリカ	2010年 (491人)	32.0	28.9	15.7	18.1	5.3
		2005年 (472人)	31.1	32.4	15.0	18.0	3.4
	フランス	2010年 (460人)	24.3	30.9	27.8	12.6	4.3
		2005年 (503人)	16.5	31.5	26.2	20.4	5.4
	スウェーデン	2010年 (510人)	10.2	26.5	19.2	39.8	4.3
		2005年 (495人)	6.5	22.4	26.9	43.8	0.4
〔女性〕	日本	2010年 (709人)	18.5	43.7	25.8	8.2	3.8
		2005年 (614人)	27.4	42.0	18.6	7.7	4.4
	韓国	2010年 (491人)	50.7	33.0	9.8	4.1	2.4
		2005年 (493人)	53.8	31.1	7.4	6.4	1.2
	アメリカ	2010年 (509人)	32.4	28.9	17.1	18.9	2.8
		2005年 (528人)	28.8	33.1	13.1	22.2	2.8
	フランス	2010年 (542人)	21.2	30.1	29.2	17.5	2.0
		2005年 (503人)	18.0	27.6	26.2	24.9	3.3
	スウェーデン	2010年 (491人)	18.1	28.7	18.1	32.0	3.1
		2005年 (524人)	8.8	25.8	21.6	42.9	1.0

#### (4) 女性の理想のライフコース (問 34)

問 34 [カード 31] (女性に) 育児と仕事との関係で、あなたの理想の生き方は次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

(男性に) 育児と仕事との関係で、あなたの配偶者・パートナーの理想の生き方は次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

(配偶者・パートナーがいない方は、いたと仮定してお答えください。)

- |                                |                       |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1 結婚も出産もせず、働き続ける               | 6 出産退職後は、育児に専念する      |
| 2 出産しないで働き続ける                  | 7 出産の有無に関係なく、結婚後は働かない |
| 3 出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける       | 8 その他 (具体的に)          |
| 4 出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく    | 9 わからない               |
| 5 出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く |                       |

注：前回調査から設問文を修正している。前回調査では、「育児と仕事との関係で、あなたが考える女性の理想の生き方は次のどれですか。あてはまるものを一つだけ選んでください」であったものを、今回調査では、男女で異なる聞き方をしている。(男性)「育児と仕事との関係で、あなたの配偶者・パートナーの理想の生き方は次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。(配偶者・パートナーがいない方は、いたと仮定してお答えください)」(女性)「育児と仕事との関係で、あなたの理想の生き方は次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。」

育児と仕事との関係で、自分自身または配偶者・パートナーの理想の生き方について聞いたところ、日本では、男女ともに、前回調査と同様、「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」が最も高い(男性：50.6%、女性：60.1%)。また、「出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける」は男女ともに前回調査から上昇しており、出産後も何らかの形で就業を継続する働き方を選択する割合は男女ともに6割を超える。一方で、「出産を機に一度退職し、子どもの手が離れたら働く」は男女ともに減少している。

各国比較でみると、日本、韓国、アメリカ、フランスでは「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」が男女ともに最も高いが、スウェーデンでは、「出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける」が男女ともに最も高い。(表 IV-3)

表 IV-3

(%)

		結婚も出産もせず、働き続ける	出産しないで働き続ける	出産するが、子どもの成長に関係なく働ける	出産するが、子どもに成長に応じて働き方を変えていく	出産を機に、一度退職し、子どもが離れたら働く	出産退職後は、育児に専念する	出産の有無に関係なく、結婚後は働かない	その他	わからない	
〔男性〕	日本	2010年 (539人)	0.7	0.4	10.4	50.6	22.1	8.2	2.4	0.4	4.8
		2005年 (501人)	0.4	0.4	7.4	56.7	24.4	4.2	1.4	0.6	4.6
	韓国	2010年 (514人)	1.0	0.2	13.2	58.6	16.5	5.3	0.8	0.2	4.3
		2005年 (511人)	1.2	-	11.6	57.5	18.7	5.9	2.9	-	2.3
	アメリカ	2010年 (491人)	4.7	2.9	19.6	30.8	26.9	6.1	0.6	1.2	7.3
		2005年 (472人)	2.3	1.3	17.6	29.0	35.2	6.8	0.6	2.8	4.4
	フランス	2010年 (460人)	3.7	3.5	20.0	35.2	29.8	4.6	0.4	-	2.8
		2005年 (503人)	1.8	1.9	14.7	36.9	35.4	5.1	0.8	1.0	2.3
	スウェーデン	2010年 (510人)	4.9	2.5	56.5	12.4	9.4	0.6	0.8	4.9	8.0
		2005年 (495人)	1.6	0.8	64.4	8.5	19.8	0.2	0.4	2.2	2.0
〔女性〕	日本	2010年 (709人)	1.1	0.7	10.6	60.1	22.1	3.2	1.0	0.1	1.0
		2005年 (614人)	0.3	0.5	8.1	58.8	27.0	3.6	1.1	0.2	0.3
	韓国	2010年 (491人)	1.2	0.6	13.2	64.6	13.2	4.1	1.8	-	1.2
		2005年 (493人)	0.8	0.2	11.2	65.1	17.5	2.0	2.0	-	1.2
	アメリカ	2010年 (509人)	3.7	2.0	16.3	37.3	30.3	7.1	0.2	1.4	1.8
		2005年 (528人)	3.2	1.1	12.7	35.2	34.1	7.8	0.6	2.1	3.2
	フランス	2010年 (542人)	2.4	2.6	17.7	42.6	29.3	3.9	0.6	0.4	0.6
		2005年 (503人)	2.3	1.3	12.2	40.3	34.7	4.7	1.4	1.2	2.0
	スウェーデン	2010年 (491人)	3.5	2.0	44.2	26.3	14.7	1.8	0.2	2.4	4.9
		2005年 (524人)	0.6	1.0	58.0	19.5	16.2	-	-	3.1	1.7



(5) 子育てにあたって利用した制度 (問 35) \* 新規の設問

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

問 35 [カード 32] あなたが、子育てにあたって利用した制度は次のうちどれですか。いくつでも選んでください。(M.A.)

- |  |   |
|--|---|
| 1 産前・産後休業制度  | 7 保育所 (認可外の保育所、保育園等を含む)                 |
| 2 育児休業制度   | 8 保育ママ・ベビーシッター                          |
| 3 父親休暇制度 (父親のみに対して、一定期間与えられた休暇制度)                        | 9 企業が従業員のためにつくった託児所                     |
| 4 短時間勤務制度 (1日の勤務時間を所定労働時間よりも短くして働くことができる制度)              | 10 幼稚園                                  |
| 5 テレワーク・在宅勤務 (情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない働き方・自宅を就業場所とする働き方) | 11 放課後児童クラブ                             |
| 6 子どもの看護のための休暇制度   | 12 地域における子育て支援サービス (ファミリーサポート、つどいの広場など) |
|  | 13 その他 (具体的に)                           |
|  | 14 特にない                                 |
|  | 15 わからない                                |

子どものいる人、子育て経験のある人に、子育てにあたって利用した制度は何か聞いたところ、日本では、男性では「幼稚園」が 36.7%で最も多かったが、女性では「保育所」が 43.4%で最も多かった。

各国の結果をみると、男性では韓国では「幼稚園」が 43.1%、アメリカでは「保育ママ・ベビーシッター」が 46.5%、フランス、スウェーデンでは「父親休暇制度」がそれぞれ、44.2%、77.1%で最も多かった。女性では、韓国で「幼稚園」が 44.9%、アメリカ、フランス、スウェーデンでは「産前・産後休業制度」がそれぞれ、51.2%、50.6%、85.1%で最も高かった。

また、日本と韓国では、「保育所」、「幼稚園」、「放課後児童クラブ」などの保育施設の利用が目立つが、「短時間勤務制度」や「育児休業制度」などの就労に関する制度の利用は少ない。一方で、アメリカ、フランス、スウェーデンでは、保育施設の利用も高いが、それに加えて就労に関する制度の利用割合が高い。

「育児休業制度」については、男性ではスウェーデンが 74.0%で最も高く、フランス (23.5%)、アメリカ (20.2%)、韓国 (5.8%)、日本 (4.8%) の順になっており、女性はスウェーデン (75.2%)、フランス (45.2%)、アメリカ (23.0%)、日本 (17.0%)、韓国 (6.3%) の順になっている。(表 IV-4)

表 IV-4

(%)

男性	産前・産後休業制度	育児休業制度	父親休暇制度	短時間勤務制度	テレワーク・在宅勤務	子どもの看護のための休暇制度	保育所（認可外を含む）	保育ママ・ベビーシッター	企業が従業員のためにつくった託児所	幼稚園（・）	放課後児童クラブ	地域における子育て支援サービス	その他	特になし	わからない
日本 2010年(270人)	5 6.7	4.8	4.4	4.1	0.7	4.1	2 30.7	1.9	1.5	1 36.7	4 12.2	3.3	0.4	3 25.6	0.7
韓国 2010年(260人)	5 11.2	5.8	2.3	5.8	1.2	2.7	3 15.0	2.3	1.9	1 43.1	4 14.2	3.5	0.8	2 36.5	1.5
アメリカ 2010年(282人)	23.8	20.2	18.1	4 27.0	13.1	2.8	2 38.7	1 46.5	2.8	3 34.8	5 26.2	4.3	2.5	10.6	5.0
フランス 2010年(260人)	18.1	4 23.5	1 44.2	9.2	3.1	11.5	16.5	3 25.4	1.2	2 33.1	5 21.2	3.1	0.8	15.8	-
スウェーデン 2010年(292人)	42.1	2 74.0	1 77.1	15.4	24.7	4 64.0	3 70.5	22.6	2.7	5 59.2	41.8	12.0	1.7	3.1	0.7

(%)

女性	産前・産後休業制度	育児休業制度	父親休暇制度	短時間勤務制度	テレワーク・在宅勤務	子どもの看護のための休暇制度	保育所（認可外を含む）	保育ママ・ベビーシッター	企業が従業員のためにつくった託児所	幼稚園（・）	放課後児童クラブ	地域における子育て支援サービス	その他	特になし	わからない
日本 2010年(477人)	3 22.9	4 17.0	1.0	7.3	2.7	3.1	1 43.4	2.1	2.3	2 40.3	5 14.5	13.8	-	10.9	0.2
韓国 2010年(334人)	5 14.4	6.3	1.2	8.1	3.3	1.8	4 17.7	3.6	1.2	1 44.9	3 21.6	1.8	0.3	2 25.1	3.3
アメリカ 2010年(326人)	1 51.2	23.0	5.8	5 33.1	14.1	1.2	3 38.3	2 46.3	2.1	4 38.0	4 27.3	6.7	2.1	9.8	2.8
フランス 2010年(405人)	1 50.6	2 45.2	15.8	20.5	2.5	9.6	21.5	4 31.4	1.5	3 38.8	5 22.0	1.7	2.2	8.9	-
スウェーデン 2010年(343人)	1 85.1	3 75.2	51.6	42.0	18.4	4 67.6	2 75.8	34.1	1.5	5 65.9	58.0	13.4	1.2	1.7	0.6

注1：上段の網掛け数字は各国の上位5項目の順番

注2：(\*)を付した「幼稚園」はフランス、スウェーデンにおいてはそれぞれ以下のものを指す。

(フランス) 「保育学校」を指す。2歳～6歳の児童が対象。2歳児の約4分の1、3歳児のほぼ全員が通っている。

(スウェーデン) 「就学前学校」を指す。1996年の保育制度改革で、「公的保育・保育所」は全て「就学前学校」に統合された経緯があるが、現在でも「保育所」という名称は一般的に用いられている。制度改革以前は「保育所」と公教育の準備機関としての「就学前学校」は概念的にも分けて考えられていたため、ここでも2つの選択肢を残すこととした。

## 2. 「仕事」「家庭生活」「個人の生活等」の優先度

### (1) 希望の優先度（問 36-1）\* 新規の設問

#### 【全員に】

問 36-1〔カード 33〕現在のあなたの日常における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度についてお聞かせください。あなたの希望に最も近いものを1つだけ選んでください。

- |                     |                              |
|---------------------|------------------------------|
| 1 「仕事」を優先           | 5 「仕事」と「個人の生活等」をともに優先        |
| 2 「家庭生活」を優先         | 6 「家庭生活」と「個人の生活等」をともに優先      |
| 3 「個人の生活等」を優先       | 7 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」をともに優先 |
| 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先 | 8 わからない                      |

現在の日常における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度について聞いたところ、日本では、男性は『仕事』と『家庭生活』をともに優先が35.4%で最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活等』を共に優先が13.4%となっているが、女性では、『家庭生活』を優先が31.3%、『仕事』と『家庭生活』をともに優先が21.9%と続く。

一方、各国との比較では、フランスとスウェーデンでは男女とも『家庭生活』を優先が最も高かった。他の国では、1位項目が男女で異なった。男性は、韓国とアメリカでは日本と同じく『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も高く（順に、29.4%、31.2%）、女性では、日本と同じく全ての国で『家庭生活』を優先が最も多い回答であった（韓国：47.7%、アメリカ：37.9%、フランス：41.3%、スウェーデン：43.2%）。（表 IV-5）

表 IV-5

(%)

		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活等」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「個人の生活等」をともに優先	「家庭生活」と「個人の生活等」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」をともに優先	わからない	
〔男性〕	日本	2010年(539人)	12.4	11.5	8.5	35.4	10.4	7.1	13.4	1.3
	韓国	2010年(514人)	23.3	22.0	5.8	29.4	6.4	3.1	8.9	1.0
	アメリカ	2010年(491人)	12.4	20.4	5.1	31.2	6.7	4.3	19.3	0.6
	フランス	2010年(460人)	6.7	35.2	5.4	19.1	3.3	8.5	21.5	0.2
	スウェーデン	2010年(510人)	4.3	32.0	4.9	19.4	3.9	10.2	24.3	1.0
〔女性〕	日本	2010年(709人)	4.4	31.3	5.2	21.9	7.8	15.4	14.0	0.1
	韓国	2010年(491人)	7.1	47.7	5.5	23.4	4.7	5.1	6.3	0.2
	アメリカ	2010年(509人)	5.9	37.9	4.5	18.5	5.1	9.4	17.7	1.0
	フランス	2010年(542人)	2.8	41.3	4.1	11.1	3.5	12.2	24.9	0.2
	スウェーデン	2010年(491人)	2.6	43.2	2.2	15.7	1.6	9.8	24.4	0.4

(2) 現実の優先度 (問 36-2) \* 新規の設問

問 36-2 [カード 33] では、あなたの現実に最も近いものを 1 つだけ選んでください。

- |                     |                              |
|---------------------|------------------------------|
| 1 「仕事」を優先           | 5 「仕事」と「個人の生活等」とともに優先        |
| 2 「家庭生活」を優先         | 6 「家庭生活」と「個人の生活等」とともに優先      |
| 3 「個人の生活等」を優先       | 7 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」とともに優先 |
| 4 「仕事」と「家庭生活」とともに優先 | 8 わからない                      |

現在の日常における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度の現実に最も近いものは何かを聞いたところ、日本では、男性は「『仕事』を優先」が 45.1%で最も高く、次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が 23.9%であった。女性では、「『家庭生活』を優先」が 38.8%で最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が 18.9%で続く。

各国比較では、男性では、韓国、アメリカ、フランスでは「『仕事』を優先」が最も高く（順に、37.7%、27.3%、29.6%）、スウェーデンでは「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が 23.1%で最も高い。アメリカでは、「『仕事』を優先」と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」がともに 27.3%で最も高い。

女性では、全ての国で「『家庭生活』を優先」が最も高い（韓国：44.8%、アメリカ：32.4%、フランス：30.3%、スウェーデン：36.3%）。

男性では、問 36-1 で、希望は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」あるいは「『家庭生活』を優先」とする割合が高かったのに対して、現実にはスウェーデンを除き「『仕事』を優先」となっているという希望と現実の乖離が見られた。また「『仕事』を優先」に関する希望と現実の乖離は日本が最も大きく、32.7 ポイントに上る。一方女性では、全ての国で希望と現実が同じ「『家庭生活』を優先」になっている。（表 IV-6）

表 IV-6

(%)

			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活等」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「個人の生活等」とともに優先	「家庭生活」と「個人の生活等」とともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」とともに優先	わからない
〔男性〕	日本	2010年 (539人)	45.1	8.3	8.9	23.9	8.0	1.7	2.8	1.3
	韓国	2010年 (514人)	37.7	16.7	9.1	22.8	5.6	1.2	4.9	1.9
	アメリカ	2010年 (491人)	27.3	15.3	8.1	27.3	6.3	4.5	10.2	1.0
	フランス	2010年 (460人)	29.6	21.5	5.2	18.9	6.7	4.1	12.4	1.5
	スウェーデン	2010年 (510人)	16.5	21.4	7.6	23.1	8.0	5.3	16.3	1.8
〔女性〕	日本	2010年 (709人)	18.8	38.8	5.5	18.9	6.1	6.2	5.5	0.3
	韓国	2010年 (491人)	14.3	44.8	9.2	17.5	6.7	3.1	3.5	1.0
	アメリカ	2010年 (509人)	13.8	32.4	4.3	22.0	7.1	8.1	12.0	0.4
	フランス	2010年 (542人)	19.2	30.3	4.2	21.4	5.5	7.7	10.5	1.1
	スウェーデン	2010年 (491人)	8.4	36.3	4.9	24.0	3.9	6.7	14.9	1.0